



学校便り 琢磨

令和3年度 第32号 R4.3.7 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える！

第58回全国児童才能開発コンテスト科学部門

(敬称は略します)

財団科学賞 5年 黒川 和紗

〃 4年 桑田 隆広

2月24日(木)、放送にて賞状の伝達を行いました。おめでとうございます。

行事予定の変更について

「まん延防止等重点措置」が3月21日まで延長されることを受け、今後の行事予定を以下のように変更いたします。変更がない行事も念のため掲載します。また、本校における感染状況によっては、今後、さらに変更することも考えられますので、よろしくお願いたします。

- 児童会役員引継式・・・未定(3/14頃 中継で実施)
- 6年生を送る会・・・未定(3/16頃 中継で実施)
- 6年生奉仕活動・・・クラスごとに実施
- 卒業式予行・・・3月15日(火) 予行は6年生のみ(表彰式中継で 見送り練習全校)
- 卒業式・・・3月18日(金) 6年生、保護者、来賓2名、一部職員のみ入場
- 子ども会打ち合わせ等・3月18日(金) 少人数で実施(18:30 監査・19:00 総会打ち合わせ)
- 陸上特別練習・・・3月22日(火) 春分の日までは中止 この日から再開
- 教室移動・・・3月23日(水)
- 人事異動発表・・・3月23日(水) 本校関係をHPに掲載予定(夕方頃)
- 修了式・・・3月24日(木) 学年ごとに5回に分けて体育館で実施
- 離任式・・・3月24日(木) 中継で実施
- 子ども会育成会総会・・・3月25日(金) 予定通り19:30実施
- 詫間小駅伝大会・・・3月26日(土)に延期 4年以上希望者 6年生も出場可

二分の一成人式(4年生)

3月3日(木)。4年生はクラスごとに「二分の一成人式」を行いました。

決意の言葉を述べた後で、証書授与を行いました。とても立派な態度でした。そして、確かに大きな夢を持っていること、それに向かって努力することもできました。この「二分の一成人式」をきっかけに、4年生は、ぐんと成長したようです。

例年なら、参観日にお家の方の前で行うこの式ですが、今年もそれはかないませんでした。そこで今年、タブレットで式の様子を録画し、そのタブレットを持ち帰ってお家の方に見ていただくようにしました。もうご覧になられましたか？きっといっぱい誉めてもらったことでしょうね。



天国から届いた手紙

私が、初めて担任をしたのは、採用2年目で、6年生でした。新採1年目は、体育専科でしたので2年目にして初めて「受け持ちのクラス」ができたのです。それからは、無我夢中でした。

学級経営がうまくいかず、上司(校長)から叱責され、授業が下手くそで保護者からの苦情が続き、子どもたちのトラブルに悩まされながら、それでも何とか笑顔でがんばっていました。1年目にクラスを受け待たせていただけなかった寂しさはとて強く、担任の子どもたちがいること自体が、とても幸せなことでしたので……。そんな日々が何年か続きました。

ある秋の日のことです。当時担任していたある女の子(Aさん)のおばあさんが、放課後学校にいらっしゃいました。私に折り入って話がしたいとのことでした。Aさんは、お母さんと2人暮らしで、女子の間でしばしばトラブルになる子でした。お母さんは、娘を育てるために必死で働き、夜勤もし、娘の面倒を細かく見る余裕はなかったのです。Aさんもきっと寂しかったのでしょう。だから、友達にもわざと嫌なことをしたり、きまりを守らなかつたりしていたのかもしれない。

「先生、お願いがあってきました。Aの母親、私の娘ですが、一昨日倒れて入院しました。検査をして分かったのですが、病気がかなり進行していて、もう長くはないと言われました。」

「えっ。」

私は、返す言葉が見つかりませんでした。

「Aさんは、そのことを……。」

「うすうす知っていると思います。だから、今日、先生にお願いにきました。母一人子一人です。Aは、私の所で預かります。これからしばらくは、Aは落ち着かないと思います。学校での様子はだいたい分かっています。お友達にも迷惑をかけるかもしれません。でも、Aがかわいそうで仕方ありません。どうか、学校ではAを守ってやっていただきたいと思って、それをお願いしにきました。」

「分かりました。分かりましたが……。」

「いえ、何かしてくれというわけではないのです。ただ、このことを先生には知っておいてほしいだけです。できるだけ宿題はさせます。必要な物は買って持たせますので。」

私は、とても後悔していました。なぜ「分かりました。任せてください。」と言わなかったのかと。Aさんのおばあさんに逆に気を遣わせてしまいました。

それからしばらくは、あまり大きなトラブルもなかったように思います。子どもは大人が心配しているほど弱くはありません。小学生だって、自分の立場を自覚しますし覚悟もします。歯をくいしばってがんばるのです。そのがんばりは、もしかしたら大人より上かもしれません。

間もなく、Aさんの母親が亡くなりました。冬の日午後。お葬式には、クラス全員の子どもたちも参列しました。家の外で出棺を待っていた私たちに、Aさんのおばあさんは、

「皆さん、今日は寒い中ありがとうございます。Aとこれからも仲良くしてやってください。」

と、子どもたちに向かって深々と頭を下げられました。それで、子どもたちは全てを悟り納得したと思います。おばあさんは、泣きじゃくるAさんの頭を抑えて、私たちに頭を下げさせました。

その日、私が家に帰りますと一通の手紙が届いていました。差出人を見て驚きました。それは、亡くなったAさんの母親からの手紙でした。亡くなられる少し前に病床で私に手紙を書き、投函を頼んだのでしょうか。私は、その手紙は、天国から届いた手紙だと思いました。

そこには、短いですが、とてもしっかりとした字で、「娘のことをお願いします。」といったことが書かれてありました。私は、親の愛情と強さを思い知らされました。その手紙を前にして、私は、何度も何度も頭を下げることしかできませんでした。